

富士見市防災環境カルテ
諏訪1丁目町会

位置番号 2

・概況

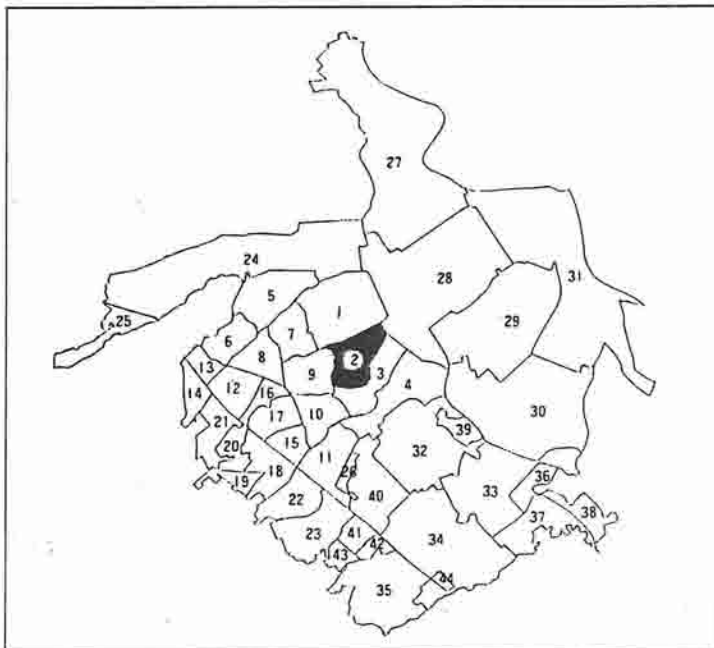
諏訪1丁目町会は、富士見市の中部に位置し、西側は台地（台地段丘）、浅い谷（浸食凹地）、谷底平野、段丘崖（急傾斜地）で、東側は水田地帯（氾濫平野）で形成されている。水田地帯は、一部盛土されて、富士見市役所、入間東部地区消防組合富士見消防署（山室町会）、市民総合体育館、（仮）市立中央図書館（建設予定）、など富士見市の行政に係わる中心地となっている。環境は、武蔵野台地上の住宅地と田園が調和した良好な地域である（西部の台地から浅い谷にかけての氷川神社、緑の散歩道「雲居の滝」を含む）。

水害履歴からは、台風に伴う大雨により水田地帯で灌漑用水路の溢水のため、水田・畑が冠水する内水災害の発生が予想される。

地震災害は、木造建物密集地が出火、延焼の危険性がやや高いと予想される。

また、段丘崖沿いに多くの擁壁があり災害要因となることも考えられる。

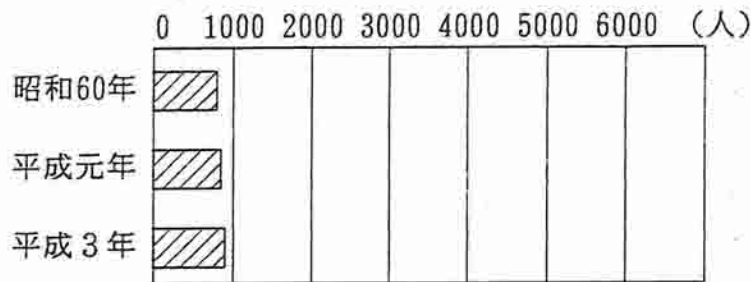
・位置図



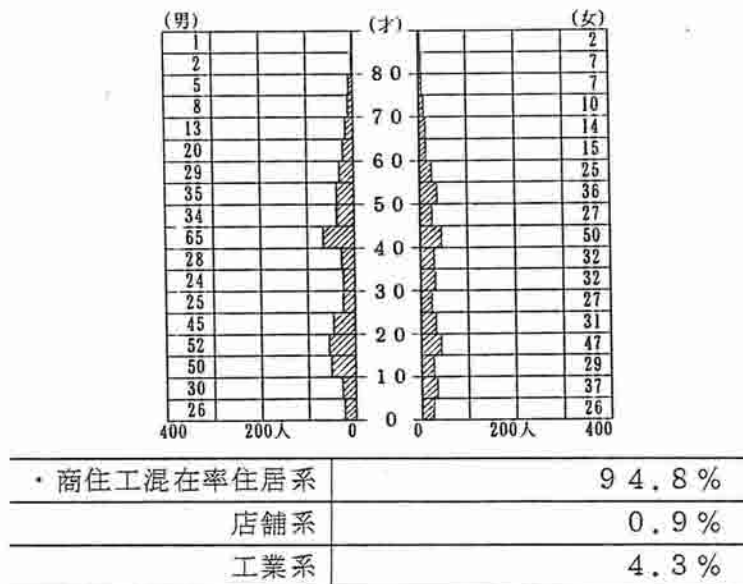
1. 基礎指標

・面積	0.269 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	493人
女	452人
計	945人
・人口密度	3,513.0人/km ²
・寝たきり老人数	1人
・ひとり暮らし老人数	2人
・世帯数	260世帯

・人口推移



・年齢別人口(平成3年)

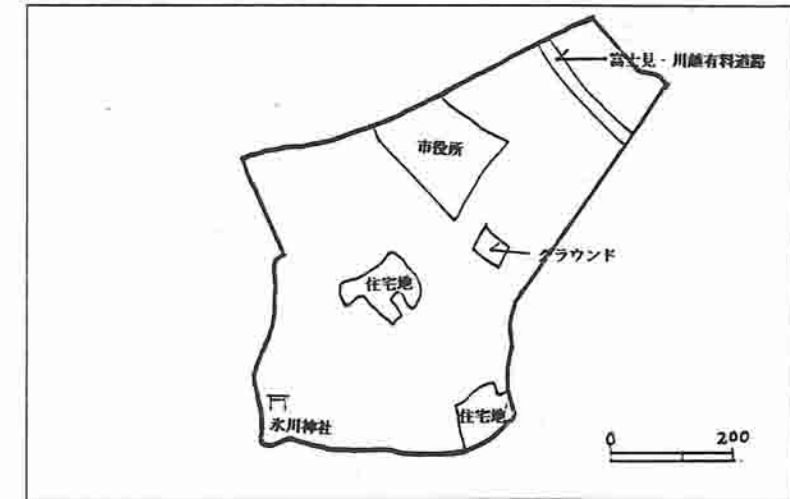


・商住工混在率住居系	94.8%
店舗系	0.9%
工業系	4.3%

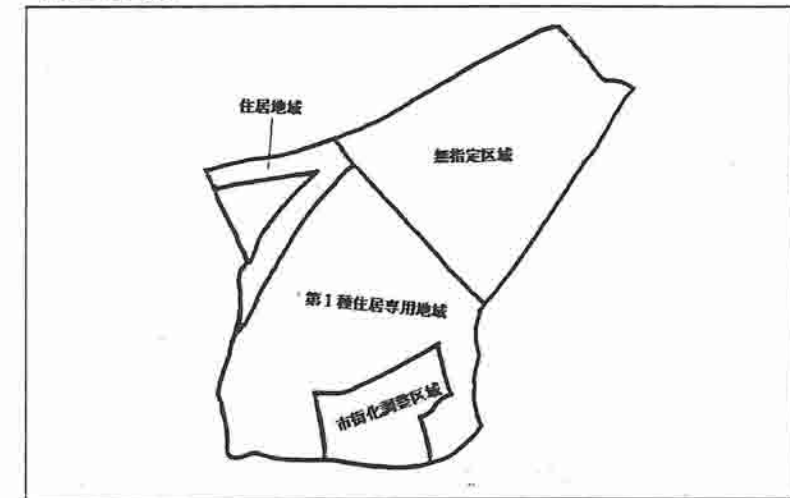
富士見市防災環境カルテ
諏訪1丁目町会

位置番号 2

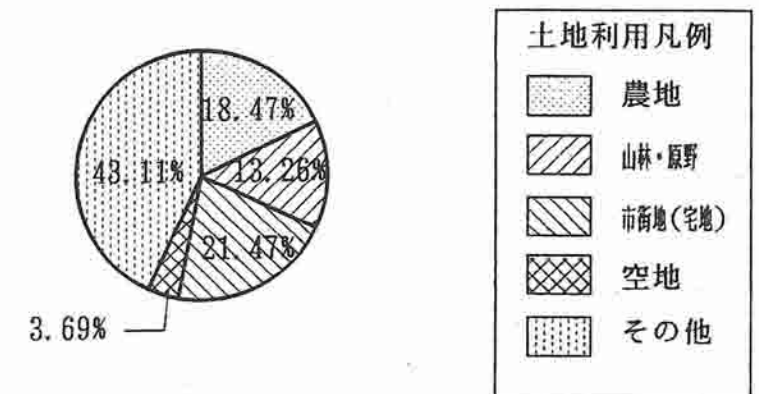
・町会現況図



・用途地域図



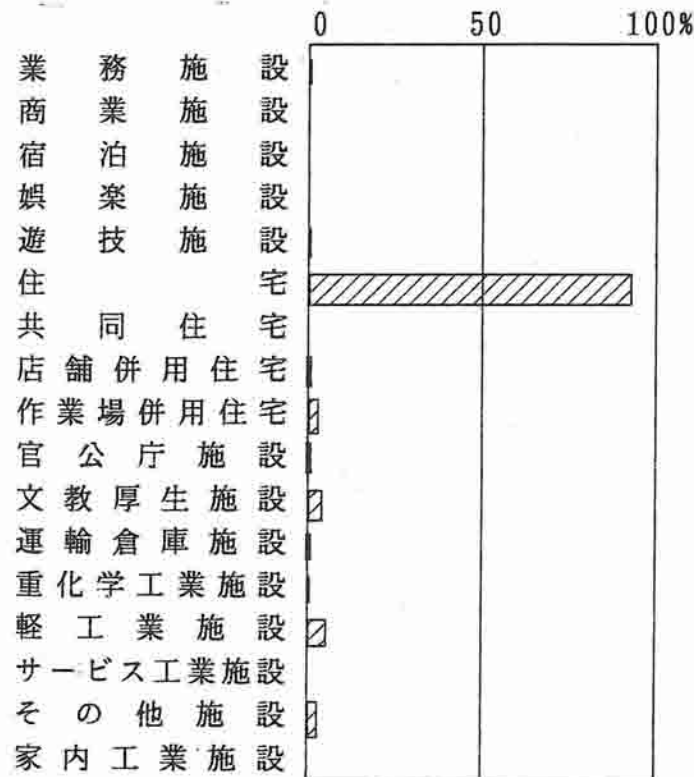
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	351棟	
・木造建物	318棟	
・非木造建物	33棟	
・建物面積	15,880.65㎡	
・木造建物	13,367.42㎡	
・非木造建物	2,513.23㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	91.4%	
・木造率	90.6% (318棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	49棟	
・同上率	15.4%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	124棟	39.1%
2階以上	193棟	60.9%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	31本	115.2本/㎢
・幹線道路率	2本	7.4本/㎢
・公共空地面積	11,000.0㎡	
・公共空地率	4.1%	
・1人あたり公共空地	11.6㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 公園	0㎡	
5. 市民総合体育館*	11,000.0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	11本
・1消火栓あたり世帯数	23.6世帯/本
・消防水利貯水施設数	1 (0) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	1か所
・一般取扱所	0か所
・ <u>屋内</u> ・屋外(タンク)貯蔵所	1か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
平成 元年 7月(大雨)	2棟	0棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 (年 ~ 年)			0件
・火災出火件数 (年 ~ 年)			0件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	0か所	
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

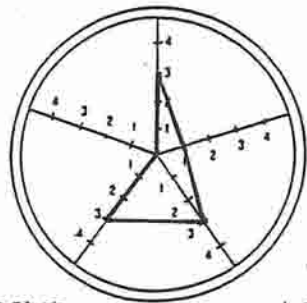
・内水災害危険度	3ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	3ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	低地 4	台地 1ランク
危険度	液状化危険度	〃 3	〃 0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

※ 想定震度 台地5(+) (強震(強))
低地6(+) 烈震(強)

9. 地盤条件

地盤は、台地部は洪積層（浸食されて段丘状になったところも含む）で硬く、浅い谷で軟らかく、水田地帯は氾濫平野で軟弱地盤となっている。台地部で震度5(+)（強震の強い方）、浅い谷で震度6(-)（烈震の弱い方）、水田地帯で震度6(+)（烈震の強い方）の地震が予想される。

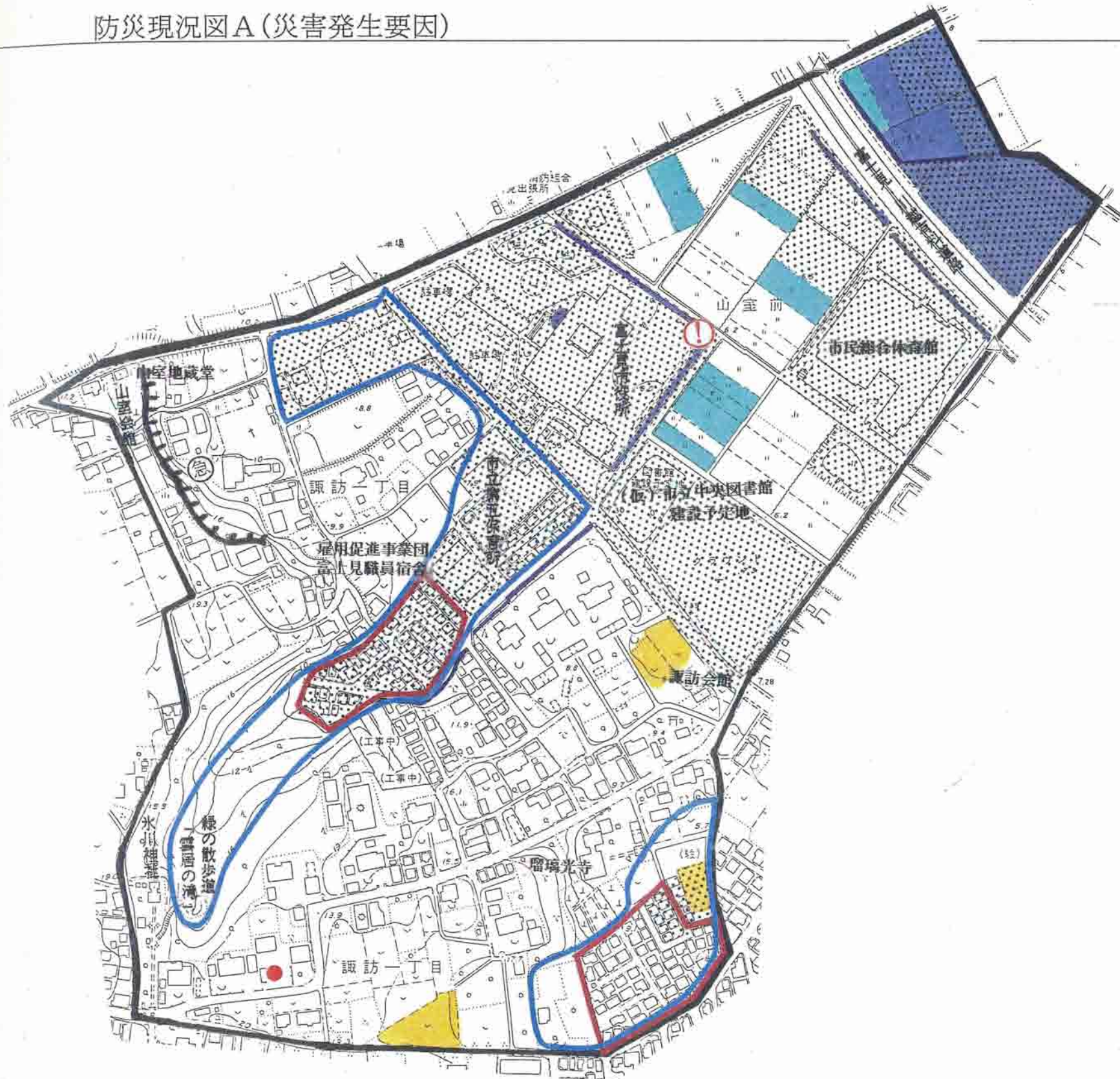
10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	水田地帯の灌漑用水路の溢水。	1. 水防能力	水防施設は、設置されていない。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	水田地帯で地盤条件が悪いため建物倒壊の危険性があるので注意を要する。	3. 消防能力	消防水利貯水施設が少ないため消防能力が低い。
4. 出火危険	木造建物密集地で出火の危険性がやや高い。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は50%~70%と見込まれるので延焼の危険性がややある。	5. 避難収容力	町会内に収容能力が高い市民総合体育館が避難所として指定されている。1人あたりの公共空地は11.6㎡/人と見込まれる。
6. その他の災害	集中豪雨により瑠璃光寺裏手の畑から住宅地にかけて土砂の流出がみられるので注意を要する。		

11. 解決の方向性

住宅密集地の地震火災の危険性がやや高いので、消防水利、貯水施設の増設が望まれる。避難可能な道路は、通路沿いにある自動販売機、ブロック塀の倒壊のため、道路を狭隘化する危険性があるので、これら転倒・倒壊の予防対策の指導が望まれる。災害予防のため擁壁のひび割れ、崩落等の点検も定期的に行う必要がある。

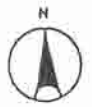
防災現況図A(災害発生要因)



凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋
▽	横断歩道橋
△	立体交差
■	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛土
■	浅い谷・低地(谷底平野)

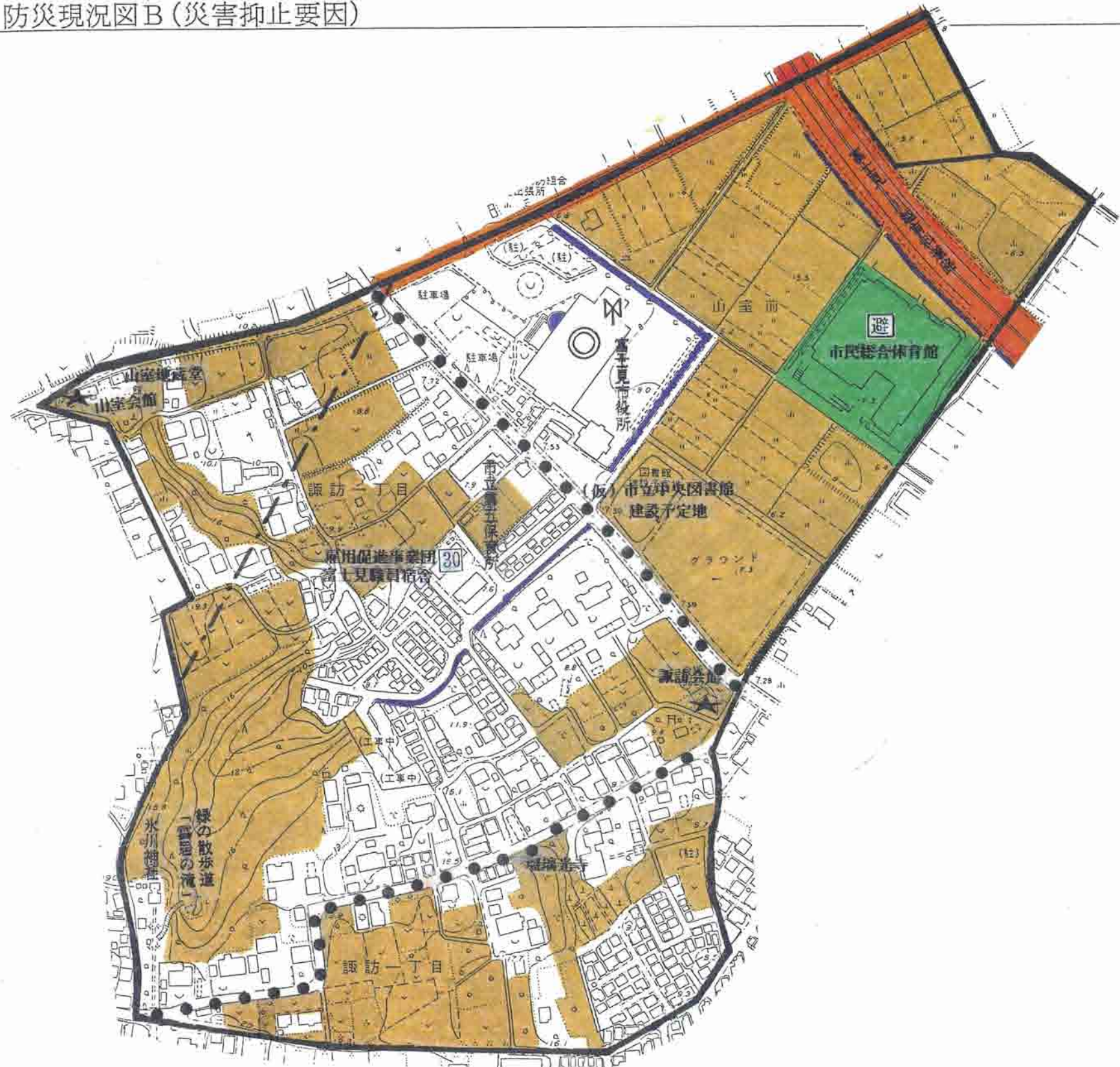
既往浸水域(平成3年台風18号)

■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



0 50 100 200 300 400 500m

防災現況図B (災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水 防 施 設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休 日 診 療 所
	指 定 避 難 所
	公 園
	河 川 ・ 水 面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

